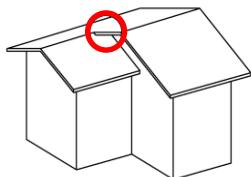


# 基準同等仕様7-①

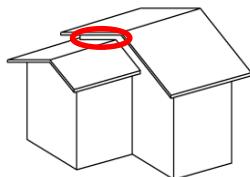
『(形状上) 下ぶき材の立ち上がり高さが250mm未満となる場合の防水・止水措置』

## 棟違い屋根、段違い屋根、入母屋屋根等とする場合

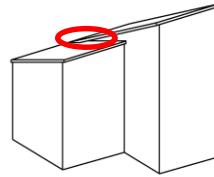
棟違い屋根、段違い屋根、入母屋屋根等とし、**形状上やむを得ず、屋根と外壁の取合い部において下ぶき材の立ち上がり高さが250mm未満となる場合は**、以下に示す防水・止水措置を施すことにより、設計施工基準第7条2項(4)に適合しているものとして保険をお申込みいただけます。



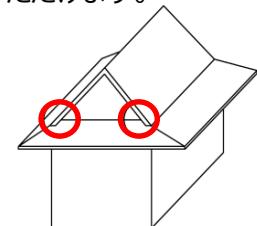
棟違い屋根



段違い屋根



勾配違い段差屋根



入母屋屋根

※本書記載の防水・止水措置を施す場合は、保険契約申込時の提出図面に「**仕様7-①**」とご記入ください  
(防水・基礎仕様説明シートへの記載でも可)

### 基準同等仕様7-① 防水・止水措置

1. ①又は②により防水層を連続させる

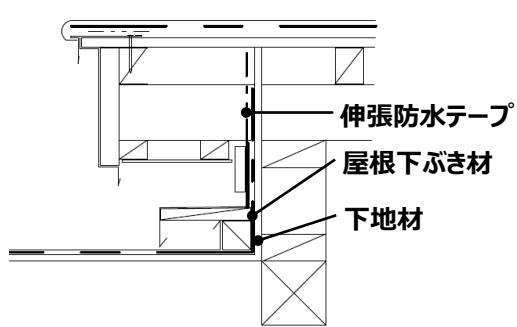
①下ぶき材を立ち上げて、端部は伸張性のある防水テープ等で密着させる **[納まり図1・2]**  
(母屋等と取合う凹凸部も確実に密着させる)

②軒の出がない場合は、下屋根の下ぶき材を巻上げ、その上に上屋根の下ぶき材を重ね巻き下げる **[納まり図3]**

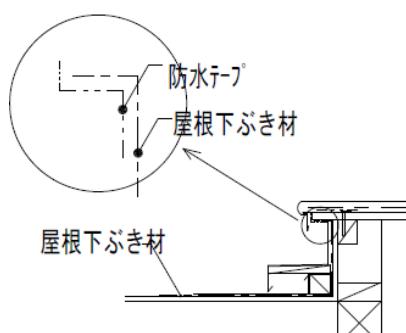
2. 三面交点となる部分(下図○部分)はピンホールを防ぐため伸張性のある防水テープを施す

**[納まり図1・2・3]**

納まり図1 (破風板付の場合)



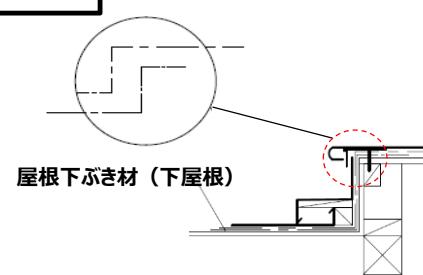
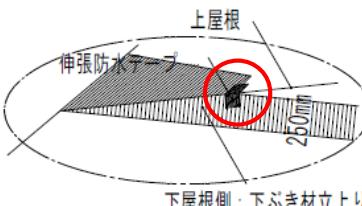
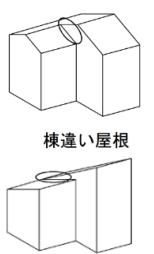
納まり図2 (破風板無の場合)



不適切な事例



納まり図3 (軒の出がない場合)



**下屋根の下ぶき材を巻上げ、その上に上屋根の下ぶき材を重ね巻き下げる**

20210901版



安心を、ささえる。未来へ、つなぐ。

**住宅保証機構**

〒105-0011 東京都港区芝公園3-1-38 芝公園三丁目ビル TEL:03-6435-8865

設計施工基準に関するQ&Aなど、技術情報を掲載しています！ HP <https://www.mamoris.jp/>

## 基準同等仕様7-②

『(形状上) 下ぶき材の立ち上がり高さが250mm未満となる場合の防水・止水措置』

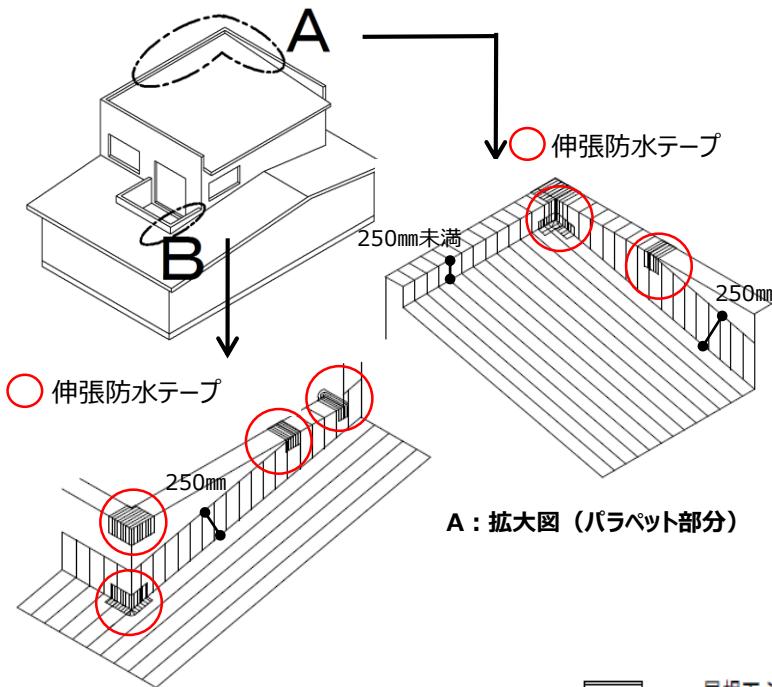
### 勾配屋根とパラペット・手すり壁が取合う場合

勾配屋根とパラペット・手すり壁が取合い、**形状上やむを得ず、屋根とパラペット・手すり壁の取合い部において下ぶき材の立ち上がり高さが250mm未満となる場合は**、以下に示す防水・止水措置を施すことにより、設計施工基準第7条2項(4)に適合しているものとして保険をお申込みいただけます。

※本書記載の防水・止水措置を施す場合は、保険契約申込時の提出図面に「**仕様7-②**」とご記入ください  
(防水・基礎仕様説明シートへの記載でも可)

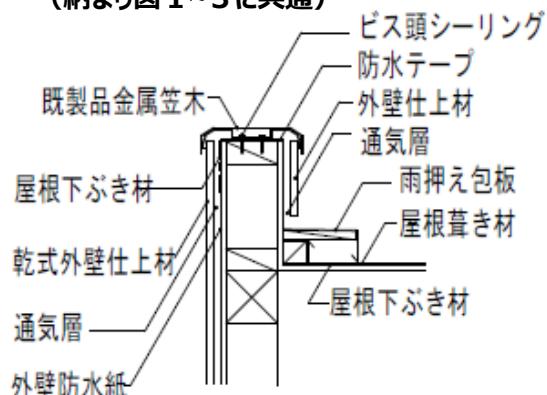
### 基準同等仕様7-② 防水・止水措置

- ①又は②により防水層を連続させる
  - 下ぶき材を立上げてパラペット天端から外壁防水紙の上に重ねる **[納まり図1]**
  - 下ぶき材と外壁防水紙を防水テープにて密着させる **[納まり図2・3]**
- 三面交点となる部分(下図○部分)はピンホールを防ぐため伸張性のある防水テープを施す **[納まり図1・2・3]**



納まり図1

笠木を固定するビス等が防水層を貫通する場合、あらかじめ防水テープ等を施し止水する  
(納まり図1~3に共通)

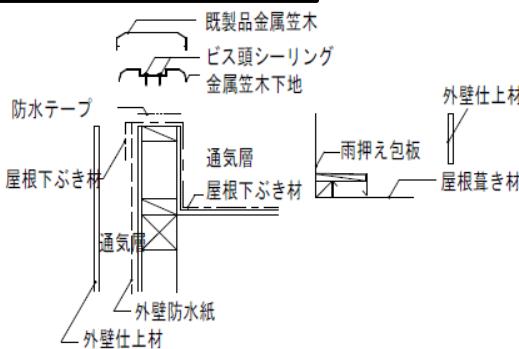


屋根下ぶき材(屋根部分)

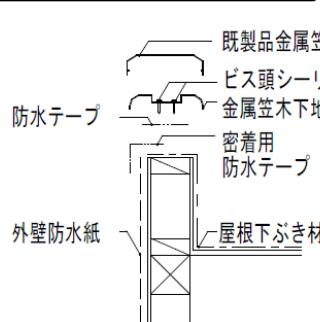
屋根下ぶき材(壁立上り部分)

伸張防水テープ

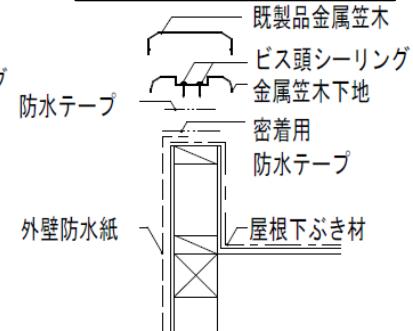
納まり図1・分解図



納まり図2・分解図



納まり図3・分解図



## 基準同等仕様7-③

『(形状上) 下ぶき材の立ち上がり高さが250mm未満となる場合の防水・止水措置』

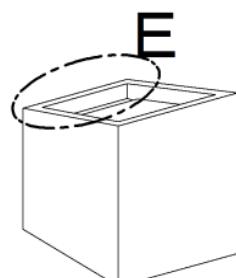
### 勾配屋根とパラペットが取合う場合 (水下側に内樋・谷樋を設ける場合)

勾配屋根とパラペットが取合い、形状上やむを得ず、屋根とパラペットの取合い部において下ぶき材の立ち上がり高さが250mm未満となる場合は、以下に示す防水・止水措置を施すことにより、設計施工基準第7条2項(4)に適合しているものとして保険をお申込みいただけます。

※本書記載の防水・止水措置を施す場合は、保険契約申込時の提出図面に「仕様7-③」とご記入ください  
(防水・基礎仕様説明シートへの記載でも可)

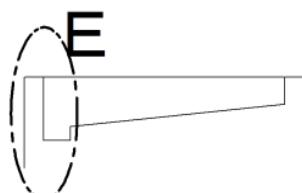
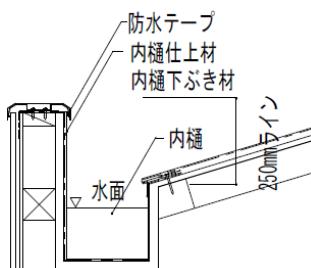
#### 基準同等仕様7-③ 防水・止水措置

1. 内樋下ぶき材及び内樋仕上げ材を屋根面まで巻き上げ、その上に屋根下ぶき材を重ね、防水テープで密着させる
2. 内樋下ぶき材を立上げてパラペット天端から外壁防水紙の上に重ねる
3. 内樋寸法及びドレン、樋の径及び樋勾配は、地域降雨量の記録から速やかに雨水等を排出させるものとする



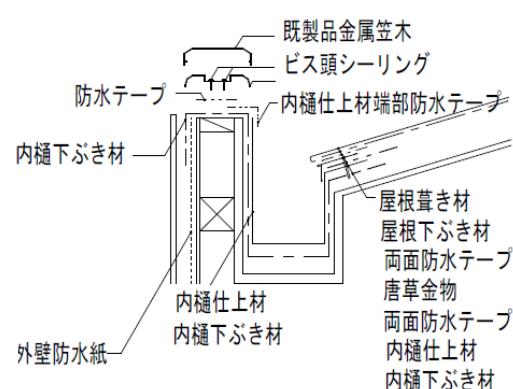
(姿図)

納まり図



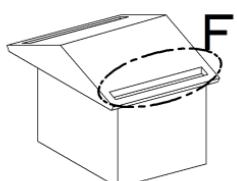
(断面図)

納まり図・分解図



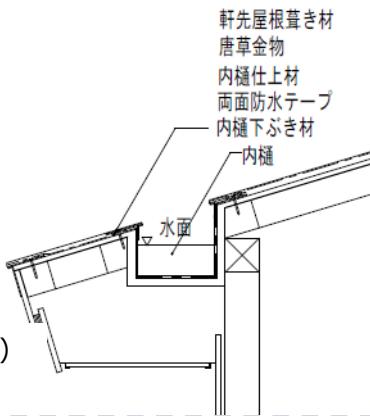
#### 参考

勾配屋根の軒先に谷樋を設ける場合 (下ぶき材の立ち上げ不足としては取扱いませんが参考図参照ください)

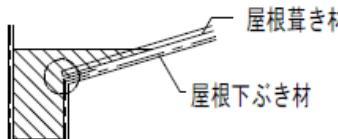


(姿図)

(断面図)

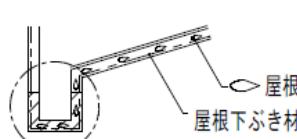


#### 不適切な事例①



ドレンの容量不足により、屋根端部より雨水浸入

#### 不適切な事例②



屋根下ぶき材を内樋下ぶき材として連続させ、屋根葺材を伝ってきた雨水が内樋の底まで流れ、下ぶき材の重ね部分より雨水浸入



『(形状上) 下ぶき材の立ち上がり高さが250mm未満となる場合の防水・止水措置』

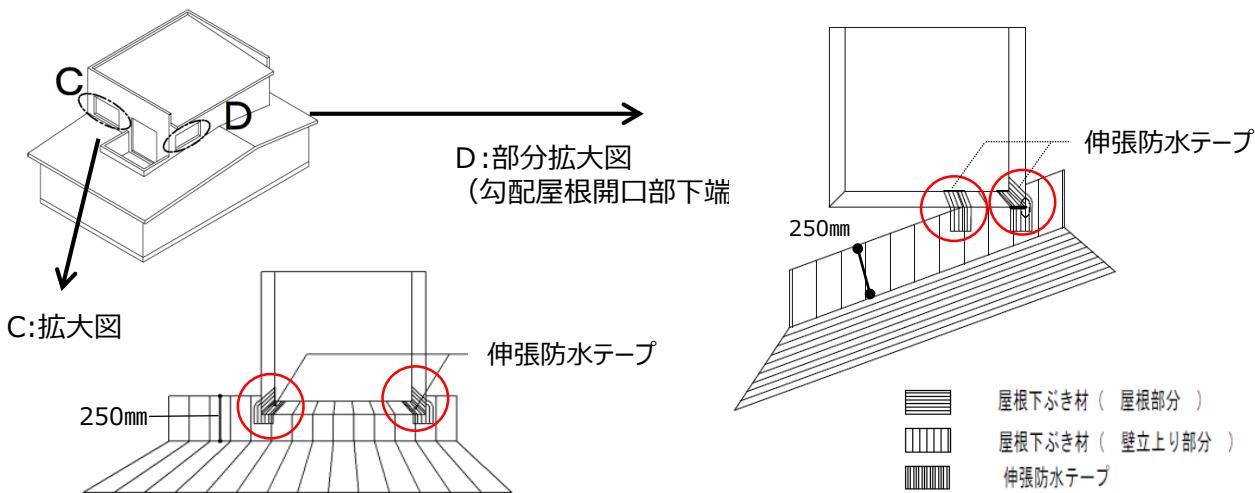
## 勾配屋根のすぐ上に窓がある場合

屋根のすぐ上に窓があり、形状上やむを得ず、屋根と窓が取合う部分において下ぶき材の立ち上がり高さが250mm未満となる場合は、以下に示す防水・止水措置を施すことにより、設計施工基準第7条2項(4)に適合しているものとして保険をお申込みいただけます。

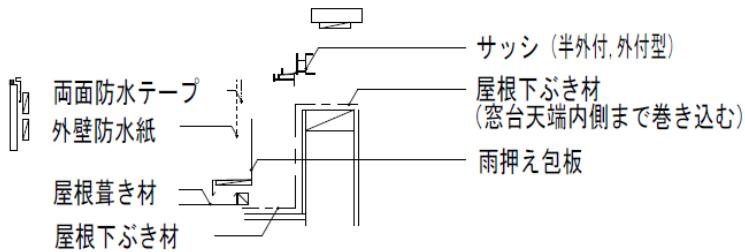
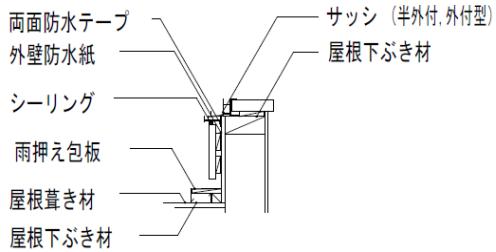
※本書記載の防水・止水措置を施す場合は、保険契約申込時の提出図面に「**仕様7-④**」とご記入ください  
(防水・基礎仕様説明シートへの記載でも可)

### 基準同等仕様7-④ 防水・止水措置

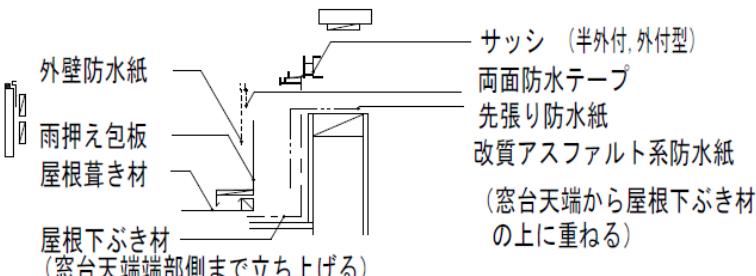
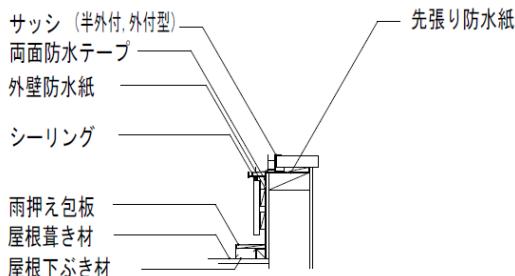
1. 下ぶき材を壁面に立ち上げて窓台天端に巻き込む **[納まり図1]**  
又は 先張り防水シート(改質アスファルト系)を施す **[納まり図2]**
2. 三面交点となる部分(下図○部分)はピンホールを防ぐため伸張性のある防水テープを施す**[納まり図1・2]**



**納まり図1(下ぶき材を壁面に立ち上げて窓台天端に巻き込む場合)**



**納まり図2(先張り防水シート(改質アスファルト系)を施す場合)**



**納まり図1・分解図**